

- 一 劍帶
- 一 外套及被服ノ釦
- 一 外套締革
- 一 手簿
- 一 捕繩

第三條 給與品ハ現品ヲ以テ給ス其ノ員數及供用期限ハ左ノ如シ但シ已ヲ得サル事情アルトキハ内務大臣ノ認可ヲ經テ其ノ供用期限ヲ變更スルコトヲ得

- 一 冬服一組 二年
- 一 夏服一組 年ハ二組 四箇月
- 一 甲種外套一箇 二年
- 一 乙種外套一箇 二年
- 一 帽 一箇 一年
- 一 日覆 一箇 四箇月

前項供用期限ノ外北海道廳長官ハ保存期限ヲ定ムルコトヲ得

第四條 北海道廳森林監守退職又ハ死亡シタルトキハ其ノ貸與品ハ直ニ之ヲ還納セシムヘシ供用期限内ノ給與品ニ付テモ亦同シ

第五條 貸與品又ハ供用期限内ノ給與品ヲ過失怠慢ニ因リ毀損紛失シタル者ハ其ノ辨償ノ責ニ任ス

第六條 給與品ノ修補ハ總テ自辨トス

附 則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

朕中央衛生會官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治三十二年六月二十一日

内閣總理大臣 侯爵 山縣有朋
内務大臣 侯爵 西鄉從道

勅令第二百九十六號 (官報 六月二十二日)

中央衛生會官制中左ノ通改正ス

第五條 中央衛生會ハ會長一人委員二十八人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
會長ハ勅任トス

委員ハ宮内省侍醫局長内務省參與官内務省地方局長内務省警保局長内務省土木局長内務省衛生局長内務省高等官三名傳染病研究所長陸軍省醫務局長陸軍省獸醫監一名海軍省醫務局長東京帝國大學醫科大學長農商務省農務局長農商務省高等官一名及醫師藥學者衛生工學者若干人ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 委員中内務省高等官陸軍省獸醫監農商務省高等官醫師藥學者衛生工學者及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
醫師藥學者衛生工學者ヨリ出テタル委員ノ任期ハ四箇年トス但シ滿期後再任セララルコトヲ得

〔參照〕

勅令第五十七號中央衛生會官制(明治二十八年五月一日官報)抄録
 第五條 中央衛生會ハ會長一人委員二十一人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
 會長ハ勅任トス
 委員ハ宮内省待醫局長内務省警保局長内務省衛生局長内務省高等官二人陸軍省醫務局長海軍省醫務局長帝國大學醫科大學長及醫師藥學家若干人ヲ以テ之ニ充ツ
 第七條 委員中内務省高等官醫師藥學家及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
 醫師藥學家ヨリ出テタル委員ノ任期ハ四箇年トス但滿期後再任セラル、コトヲ得

朕北海道鐵道部官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第二百九十七號(官報六月二十二日)

北海道鐵道部官制

第一條 北海道廳ニ北海道鐵道部ヲ置キ北海道ニ於ケル官有鐵道ノ建設保存及運輸ノ業務ヲ掌理セシム

第二條 北海道鐵道部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一人 奏任
 鐵道事務官 專任一人

鐵道技師

專任九人内一人ハ勅任ト爲スコトヲ得

鐵道書記

專任八十一人 判任

鐵道技手

專任六十八人

第三條 部長ハ北海道廳高等官ヲシテ之ヲ兼ネシム

部長ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ一切ノ部務ヲ掌理ス

第四條 鐵道事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務運輸ヲ掌ル

第五條 鐵道技師ハ上官ノ命ヲ承ケ工務ヲ掌ル

第六條 鐵道書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務運輸ニ從事ス

第七條 鐵道技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ從事ス

朕高等官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第二百九十八號(官報六月二十二日)

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

文武高等官官等表中北海道廳ノ部(北海道廳參事官)ノ次五等乃至七等ノ欄ニ左ノ一項ヲ加フ

北海道廳鐵道事務官 同上 同上

高等文官等相當俸給表中「北海道廳參事官」ノ次ニ「北海道廳鐵道事務官」ヲ加フ

朕北海道廳高等官俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第二百九十九號(官報 六月二十二日)
北海道廳高等官俸給令中左ノ通改正ス

第一條中「參事官」ノ次ニ「鐵道事務官」ヲ加フ

〔參照〕

勅令第三百二十號北海道廳高等官俸給令(明治三十一年十月二十二日)抄錄

第一條 北海道廳長官ノ年俸ハ四千圓勅任事務官ノ年俸ハ一級三千圓二級二千五百圓トシ其ノ他ノ高等文官ノ年俸ハ左ノ如シ

一級	二千八百圓
二級	二千六百圓
三級	二千四百圓
四級	二千二百圓
五級	二千圓
六級	一千九百圓
七級	一千八百圓

支廳長

參事官

警視
典獄

一級	九千圓
二級	八千圓
三級	七千圓
四級	六千圓

朕臺灣總督府法院檢察官任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百號(官報 六月二十二日)

臺灣總督府法院檢察官ハ判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

朕著作權法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百一號(官報 六月二十二日)

著作權法ハ明治三十二年七月十五日ヨリ臺灣ニ施行ス

朕遺失物法ヲ臺灣ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十一日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百二號(官報六月二十二日)

明治三十二年法律第八十七號遺失物法ヲ臺灣ニ施行ス

朕臺灣總督府ニ於テ施行スル鐵道敷設燈臺建築及築港其ノ他直營事業ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十一日

大藏大臣伯爵松方正義
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百三號(官報六月二十二日)

臺灣總督府ニ於テ施行スル鐵道敷設燈臺建築及築港其ノ他直營ノ事業ニ要スル物件ノ買賣貸借及勞力供給ノ請負ハ同府管内ニ限り隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕沖繩縣土地整理法中報價ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十一日

大藏大臣伯爵松方正義
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百四號(官報六月二十二日)

第一條 沖繩縣土地整理法第六條第一項但書ニ依リ土地ノ所有權ヲ得タル者ノ交付スヘキ報價額ハ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ交付シタル叶米又ハ之ニ代ハルヘキ報價ノ三箇年分トス但シ叶米其ノ他金錢ニアラサル報價ハ關係者ノ協議ニ依リ之ヲ金錢ニ換算シテ交付スルコトヲ得

第二條 前條ノ報價額ハ其ノ土地ニ付地租條例ニ依リ始メテ地租ヲ課セラルル年ニ於テ之ヲ交付スヘシ但シ其ノ年ヨリ年賦ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ毎年ノ交付額ハ從來ノ叶米又ハ之ニ代ハルヘキ報價年額ヲ下ルコトヲ得ス

第三條 前二條ハ沖繩縣土地整理法第十七條ニ依リ同法第六條第一項但書ニ準シテ土地ノ所有權ヲ得タル者ニ準用ス

朕明治二十九年勅令第百八十八號改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十三日

大藏大臣 伯爵松方正義
内務大臣 侯爵西郷從道

勅令第三百五號 (官報 六月二十四日)

北海道鐵道部ニ於テ鐵道事業ニ要スル車輛器具機械其ノ他鐵道用品ヲ官廳若ハ私設鐵道會社ヨリ買入借入又ハ官廳若ハ私設鐵道會社ニ買渡貸渡ストキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

朕陸軍監獄條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十三日

陸軍大臣 子爵桂 大郎

勅令第三百六號 (官報 六月二十四日)

陸軍監獄條例中左ノ通改正ス

第四條 未決監已決監ハ衛戍司令官之ヲ管理シ留置場ハ師團長臺灣守備混成旅團長憲兵司令官之ヲ管理シ陸軍大臣ノ監督ニ屬ス

第五條中「屯田兵司令官」ヲ削ル

第九條中「又ハ屯田兵司令官」ヲ削ル

(參照)

勅令第三號陸軍監獄條例(明治二十七年一月八日官報)抄録

第四條 未決監已決監及留置場ハ衛戍司令官屯田兵司令官各之ヲ管理シ陸軍大臣之ヲ監督ス但近衛各隊及憲兵隊留置場ハ近衛師團長憲兵司令官各之ヲ管理ス

第五條 陸軍大臣ハ二年若クハ三年ニ一回陸軍省法官部長若クハ法官部部長ヲシテ未決監已決監ヲ巡視セシムヘシ衛戍司令官屯田兵司令官ハ隨時其ノ所管未決監已決監ヲ巡視スヘシ

理事ハ少クトモ二箇月ニ一回其ノ所屬軍法會議所在地ノ未決監已決監ヲ巡視スヘシ

第九條 在監人黨ヲ結ビ暴行反獄若クハ越獄ヲ謀リ又ハ結黨犯罪者多數入監ノ爲メ戒嚴上ノ虞ノ恐レアルトキハ監獄長ヨリ衛戍司令官又ハ屯田兵司令官ニ其ノ旨ヲ具申スヘシ

司令官前項ノ具申ヲ受ケタルトキハ兵員ヲシテ相當ノ取締ヲ爲サシムヘシ

朕製鐵所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十三日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
農商務大臣 曾禰荒助

勅令第三百七號 (官報 六月二十四日)

製鐵所官制

第一條 製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル

第二條 製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク

長官

一人

勅任

事務官

專任二人

奏任

技師

專任十四人

内一人ハ勅任トス

書記

專任三十八人

判任

技手

專任五十三人

第三條 長官ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ總理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス
長官ハ奏任官ノ進退ハ之ヲ農商務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第四條 事務官ハ長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第八條 製鐵所ニ左ノ諸部ヲ置ク

工務部

製銑部

製鋼部

製品部

經理部

各部ニ於ケル事務ノ分掌ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九條 農商務大臣ハ所中ニ課ヲ置クコトヲ得

第十條 製鐵所ニ技師長ヲ置キ勅任技師ヲ以テ之ニ充ツ

技師長ハ長官ノ命ヲ承ケ技術官ヲ指揮監督シ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條 各部ニ部長ヲ置キ工務部製銑部製鋼部製品部ニ在テハ技師經理部ニ在テハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ

部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

第十二條 農商務大臣ハ製鐵所豫算定額内ニ於テ製鐵所出張所ヲ設置スルコトヲ得

出張所所管ノ事務ハ農商務大臣之ヲ定ム

朕郵便及電信局 在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年六月二十二日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
遞信大臣 子爵芳川顯正

勅令第三百八號 (官報 六月二十四日)

郵便及電信局、在外郵便電信局郵便局、郵便爲替貯金管理所及電話交換局職員定員中左ノ通改正ス

第一條 中通信書記ノ下「專任二千八百四十九人」ヲ「專任三千七十七人」ニ通信技手ノ下「專任三百六十八人」ヲ「專任三百四十八人」ニ通信書記補ノ下「專任四千三百六十四人」ヲ「專任四千七百八十八人」ニ改ム

朕從軍記章褫奪及佩用停止取扱手續ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋

勅令第三百九號(官報 六月二十七日)

明治十九年閣令第十九號勅章年金褫奪及停止取扱手續ハ第八條及第九條ヲ除ク外從軍記章ノ褫奪及佩用停止ノ取扱手續ニ關シ之ヲ準用ス但シ從軍記章ヲ有スル者重罪ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於ケル取扱手續ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノノ例ニ依ル

朕臨時臺灣鐵道敷設部事務官特別任用令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百十號(官報 六月二十七日)

臨時臺灣鐵道敷設部事務官ハ左ニ掲グル者ノ中ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

- 一 鐵道ニ關スル技師技手又ハ滿三年以上鐵道事務ニ關スル判任官ニ在職シタル者又ハ滿一年

以上鐵道事務ニ從事シ現ニ高等官ニ在職スル者

- 二 滿三年以上會計事務ニ從事シ現ニ判任官三級俸以上ノ俸給ヲ受クル者

朕臨時臺灣鐵道敷設部職員官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百十一號(官報 六月二十七日)

臨時臺灣鐵道敷設部職員官等俸給令中左ノ通改正ス

第二條 臨時臺灣鐵道敷設部事務官ノ官等ハ高等官四等以下八等以上トシ其ノ俸給ハ臺灣總督府職員官等俸給令中第二號俸給表ニ依リ臨時臺灣鐵道敷設部技師ノ官等及俸給ニ關シテハ同令中技師ニ關スル規定ヲ適用ス

〔參照〕

勅令第八十二號臨時臺灣鐵道敷設部職員官等俸給令(明治三十二年三月三十一日官報)抄録
第二條 臨時臺灣鐵道敷設部事務官及技師ノ官等及俸給ニ關シテハ臺灣總督府職員官等俸給令中事務官及技師ニ關スル規定ヲ適用ス

朕臺灣總督府職員加俸支給規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年六月二十六日

内閣總理大臣侯爵山縣有朋
内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百十二號(官報六月二十七日)

臺灣總督府職員加俸支給規則中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ臺灣島人ハ此ノ限ニ在ラス

(參照)

勅令第三百號臺灣總督府職員加俸支給規則(明治二十九年三月三十一日官報)抄録

第一條 臺灣總督府職員ニハ本則ニ依リ加俸ヲ支給ス

朕著作權法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年六月二十七日

内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百十三號(官報六月二十八日)

著作權法ハ明治三十三年七月十五日ヨリ施行ス

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ著作權法施行ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年六月二十七日

内務大臣侯爵西鄉從道

勅令第三百十四號(官報六月二十八日)

第一條 著作權法第四十八條第一項ニ依リ複製物ヲ發賣頒布セントスル者及同條第二項ニ依リ其ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ヲ使用セントスル者ハ其ノ複製物及器械器具ニ明治三十三年九月三十日迄ニ檢印ヲ申請スヘシ

複製ニ著手シタル場合ニハ著手ノ事實ヲ前項期間内ニ届出テ複製物發行前其ノ複製物ニ檢印ヲ申請スヘシ

前項複製物ノ複製ノ用ニ供シタル器械器具ハ同時ニ檢印ヲ申請スヘシ

第二條 著作權法第四十九條第一項ニ依リ複製物ヲ發賣頒布セントスル者ハ同法施行前ニ翻譯シ又ハ翻譯ニ著手シタルコトヲ明治三十三年九月三十日迄ニ届出ツヘシ

前項ノ複製物ヲ著作權法第四十九條第二項ノ期間満了後ニ發賣頒布セントスル者ハ其ノ期間満了後二箇月以内ニ其ノ複製物ニ檢印ヲ申請スヘシ

第三條 著作權法第五十條ニ依リ興行ヲ爲サントスル者ハ同法施行前既ニ興行シ又ハ興行ニ著手シタルコトヲ明治三十三年九月三十日迄ニ届出ツヘシ

第四條 檢印ヲ受ケタル器械器具ヲ用井テ複製シタル複製物ヲ著作權法第四十八條第二項ノ期間満了後ニ發賣頒布セントスル者ハ其ノ期間満了後二箇月以内ニ其ノ複製物ニ檢印ヲ申請スヘシ
 第五條 他ニ移轉シ難キ器械器具ニ檢印ヲ申請スルトキハ檢印ヲ受クル爲費用ヲ前納シテ官吏ノ出張ヲ請求スルコトヲ得

第六條 檢印ノ申請及届出ハ管轄地方廳ニ之ヲ爲スヘシ

第七條 地方廳ハ檢印ヲ爲シ又ハ届出ヲ受ケ其ノ目錄簿ヲ備置クヘシ

第八條 器械器具ニシテ檢印ヲ爲シ難キモノナルトキハ檢印ニ代フルノ方法ヲ用井ルコトヲ得此ノ方法ニ關シテハ總テ本令中檢印ニ關スル規定ヲ適用ス

第九條 虚偽ノ届出ヲ爲シ又ハ虚偽ニ依リ檢印ヲ受ケタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 地方廳ハ届出ヲ受ケ若ハ檢印ヲ爲シタルトキ又ハ届出若ハ檢印ノ無効トナリタルトキハ官報ヲ以テ告示スヘシ

朕府縣行政及郡行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要セサル事項ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十八日

大藏大臣 伯爵松方正義
 内務大臣 侯爵西郷從道

勅令第三百十五號 (官報 六月二十九日)

左ニ掲グル事項ハ主務大臣ノ許可ヲ要セス但シ郡ニ於テハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 其ノ府縣郡ニ於テ從來徵收シタルモノト同種類ノ使用料手数料及其ノ細則ニ關スル件
- 二 其ノ府縣内ニ於ケル教育勸業衛生土木若ハ慈善ノ事業ニ對スル補助其ノ他其ノ府縣ニ於テ從來補助シタルモノト同種類ノ補助ニ關スル件
- 三 豫定價格五千圓未満ノ府縣有不動産處分ニ關スル件
- 四 其ノ府縣ニ於テ從來賦課シタルモノト同種類ノ夫役現品ノ賦課ニ關スル件
- 五 支出總額十萬圓以内ノ府縣繼續費ニ關スル件
- 六 其ノ府縣ニ於テ從來設ケタルモノト同種類ノ特別會計ニ關スル件
- 七 府縣債ノ元本總額五萬圓郡債ノ元本總額千圓ニ達スルマテノ起債
- 八 地租二分ノ一以下ノ附加税ノ賦課ニ關スル件
- 九 警察費國庫下渡金ニ對スル支出金額ノ件

朕府縣費ノ分賦及不均一賦課ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十八日

内務大臣 侯爵西郷從道

勅令第三百十六號 (官報 六月二十九日)

明治三十二年六月 勅令 第三百十六號

第一條 府縣ハ臨時少額ノ費用ヲ爲特ニ賦課徴收ヲ爲スヲ要スル場合ニ於テハ其ノ費用ヲ府縣内市町村ニ分賦スルコトヲ得

前項ニ依リ分賦スヘキ費用ノ限度ハ内務大臣之ヲ定ム

第一項分賦ノ割合ハ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル市町村ノ直接國稅府縣稅ノ徴收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

第二條 市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ市部ニ屬スル部分ヨリ徴收スヘキ額ヲ市ニ分賦スルコトヲ得

第三條 法律命令中別ニ規定アルモノヲ除ク外市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ニ於テハ府縣ノ費用ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ其ノ市部ト郡部ト利益ノ程度ヲ異ニシ均一ノ賦課ヲ爲シ難キ事情アルトキハ其ノ費用ニ限り不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

附則

第四條 本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

除關稅法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治三十二年六月二十九日

大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第三百十七號 (官報 六月三十日)

關稅法ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

除關稅法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治三十二年六月二十九日

大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第三百十八號 (官報 六月三十日)

關稅法ハ明治三十二年八月四日ヨリ施行ス

除關稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御 名 御 璽

明治三十二年六月二十九日

大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第三百十九號 (官報 六月三十日)

關稅法施行規則

第一章 關稅ノ賦課徴收及擔保

第一條 關稅法第一條第一項但書ニ依リ特別協定ノ便益ヲ受ケントスル者ハ特別協定ノ適用ヲ受ケルヘキ地域内ノ產出品又ハ製造品ナルコトヲ證明スヘシ但シ郵便物及課稅價格百圓ヲ超エザル貨物ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ證明ハ貨物ノ產出地、製造地若ハ積出地ノ帝國領事館若ハ貿易事務館帝國領事館及貿易事務館ナキトキハ其ノ地ノ稅關其ノ他ノ官廳公署又ハ商業會議所ノ證明シタル製產原地證明書ヲ以テスルヲ要ス

第三條 前項ノ製產原地證明書ニハ貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及產出又ハ製造ノ地域ヲ記載スヘシ

第四條 關稅ヲ徵收セントスルトキハ納金額及納付金庫ヲ指定シタル文書ヲ以テ納稅人ニ告知スヘシ但シ金庫ニ納付セシムル場合ノ外告知書ヲ要セス

第五條 納稅人前條ノ告知書ヲ受ケタルトキハ之ニ稅金ヲ添ヘ指定ノ金庫ニ納付スヘシ

第六條 旅客ノ攜帶品關稅法第二十四條但書ニ掲ケタル貨物等ニ付キ貨物ヲ檢査シタル官吏直ニ關稅ヲ徵收スルトキハ他ノ官吏若ハ公吏ノ立會アルヲ要ス

第七條 前項ニ依リ關稅ヲ徵收シタルトキハ立會官吏若ハ公吏ノ證明ヲ受ケ稅關ニ報告スヘシ

第八條 關稅法第四十二條ニ依リ郵便局ニ於テ稅金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ郵便物交付前ニ之ヲ名宛人ニ通知スヘシ

第九條 前條ノ通知ヲ受ケタル者ハ稅金ニ相當スル收入印紙ヲ通知書ニ貼付シ郵便局ニ提出スヘシ

第十條 郵便局ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタルトキハ當該稅關ニ送付スヘシ

第十一條 關稅法第二條ニ依リ減稅ヲ請ハントスル者ハ損傷貨物ノ記號、番號、品名、數量、原價、諸費

及請求ノ要領ヲ記載シタル文書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十二條 關稅ノ擔保トシテ提供スヘキモノハ金銀及有價證券ニ限ル

第十三條 擔保ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ供託受領證ヲ稅關ニ提出スヘシ

第十四條 稅關ハ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十五條 關稅法第六條但書ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ最初公告ノ日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ競賣スヘシ

第十六條 前條ノ公告ハ擔保提供者ノ住所又ハ居所、氏名、證券ノ種類、金額、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第十七條 公賣決行前ニ關稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第十八條 關稅法第六條但書ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得

第二章 船舶ニ關スル手續

第十九條 船舶ノ入港届ハ船舶ノ名稱、國籍、登簿噸數、仕出港、入港ノ時及乘組海員ノ數ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十條 積荷目録ニハ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕出地、仕向地、記號、番號、品名、箇數、數量及荷受人ヲ記載スヘシ

第二十一條 關稅法第十五條ニ依リ提出スヘキ積荷目録ニハ前項ニ掲ケタル事項ノ外貨物ノ船卸ヲ爲スヘキ地ヲ記載スヘシ

第二十二條 船口申告書ニハ船口ノ所在、箇數、船用品目録ニハ船用品ノ種類、數量及見積價格、旅客

氏名表ニハ旅客ノ國籍、氏名、乘込地及上陸地ヲ記載スヘシ

前項ノ文書ニハ仍船舶ノ名稱及國籍ヲ記載スヘシ

第二十條 外國貨物ヲ積載セル船舶、積荷目録提出前ニ於テ貨物積卸ノ認許ヲ得ントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十一條 船舶ノ出港届ハ船舶ノ名稱、國籍、仕向港及出港ノ時ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ檢スヘシ

第二十二條 外國貿易船出港ノ免許ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ出港ヲ免許シタルトキハ發ニ預リタル船舶國籍證書其ノ他ノ書類ヲ還付スヘシ

第二十三條 外國貨物ヲ積載セル船舶日没ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ノ積卸ヲ爲ス爲稅關長ノ特許ヲ受ケントスルトキハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第二十四條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納付スヘシ但シ外國貨物ヲ積載セル沿海通航船内國貨物ノ積卸ヲ爲スニ止マルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 警察官吏關稅法第十八條第二項ノ届出ヲ受ケタルトキハ所轄稅關又ハ監視署ニ急報スヘシ

第二十六條 關稅法第十九條ニ掲ケタル外國貨物ヲ不開港ヨリ開港ニ回漕スルノ認許ヲ受ケントスルトキハ船長ヨリ船卸港、貨物ノ品名、箇數及數量ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

第二十七條 外國貨物ノ假陸揚ヲ爲セントスルトキハ其ノ記載、番號、品名、箇數及數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關ニ、稅關ノ設置ナキ地ニアリテハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ申告スヘシ但シ海難其ノ他已モ得ザル事故ニ因リ復々申告スル能ハサルトキハ陸揚シタル後直ニ申告スヘシ

スヘシ

第二十八條 關稅法第二十一條ノ申告ハ物品ノ種類、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十九條 沿海通航船海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ外國ニ寄港シタルトキハ歸港後其ノ地所轄ノ稅關ニ申告スヘシ

前項ノ船舶外國ニ於テ船用品ヲ積入レタルトキハ其ノ種類、數量及原價ヲ記載シタル目録ヲ歸港地所轄ノ稅關ニ提出スヘシ

第三章 貨物ニ關スル手續

第一節 總則

第三十條 日没ヨリ日出迄ノ間又ハ稅關ノ休日ニ於テ貨物ヲ稅關ニ送致シ又ハ貨物ノ引取若ハ搬送ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

第三十一條 前條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納付スヘシ

第三十二條 稅關ニ於テ定メタル場所以外ニ於テ貨物ノ陸揚、船積其ノ他船舶ト陸地トノ交通ヲナス爲特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類等ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

特許ノ條件ニ違反シタルトキハ稅關ハ特許ヲ取消スヘシ

第三十三條 稅關又ハ稅關支署ノ構外ニ於テ貨物ノ檢査ヲ受ケントスル者アルトキハ稅關ハ之ヲ特許スルコトアルヘシ但シ關稅法第二十四條但書ノ場合ニ於テハ特許ヲ受クルヲ要セス

前項ノ特許ヲ受ケントスル者ハ其ノ場所、期間、貨物ノ種類ヲ記載シタル申請書ヲ提出スヘシ

本條ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手数料ヲ納付スヘシ

第二節 貨物ノ輸出及積戻手續

第二十四條 輸出申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量、價格及仕向港ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ但シ旅客攜帶品ニ關スル申告ハ文書ヲ以テスルヲ要セス

輸出貨物外國產ナルトキハ仍其ノ產地ヲ記載スヘシ
修繕ノ爲輸出シ再ヒ輸入スヘキ貨物ノ輸出申告書ニハ仍輸出ノ目的再輸入ノ場所及期限ヲ記載スヘシ

前項再輸入ノ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸出港稅關ニ申告スヘシ

第三十五條 關稅定率法第六條ニ依リ關稅ヲ免除セラレタル貨物ヲ輸入ノ日ヨリ滿六箇月以內ニ輸出セントスル者又ハ通過ノ爲輸入シタル貨物ヲ輸出セントスル者ハ輸出申告ヲ爲スト同時ニ輸入免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ貨物ニ付輸出ノ免許ヲ爲シタルトキハ輸入免狀又ハ證明書ニ輸出濟ノ旨ヲ記入シ提出者ニ交付スヘシ

第三十六條 第三十四條第一項ノ規定ハ積戻申告ニ之ヲ準用ス

第三節 貨物輸入ノ手續

第三十七條 輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ積載船舶ノ名稱、國籍、貨物ノ仕入地、產出地又ハ製造地、記號、番號、品名、箇數、數量、原價及諸費ヲ記載スヘシ

第三十八條 旅客攜帶品ニ關スル申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十九條 關稅定率法第五條第十號及第十一號ニ該當スル貨物ヲ輸入セントスル者關稅ノ免除ヲ得ントスルトキハ輸入申告ヲ爲スト同時ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ稅關ノ證明書ヲ提出スヘシ

第四十條 關稅定率法第六條ニ掲ケタル貨物ノ輸入ヲ爲サントスル者ハ輸入申告書ニ仍輸入ノ目的及輸出港ヲ記載スヘシ

輸出港ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ輸入港稅關ニ申告スヘシ

第四十一條 通過ノ爲輸入スル貨物ノ輸入申告書及通過貨物ノ目錄ニハ仍輸入ノ目的及輸出地ヲ記載スヘシ

第四十二條 關稅法第三十四條但書ニ依リ輸入免許前ニ貨物引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ輸入申告書ニ記載シタル貨物ヲ分割シテ引取ノ認許ヲ得ントスル者ハ仍該貨物ノ記號、番號、品名、數量及輸入申告ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四十三條 貨物ノ仕入書ハ輸入免許ヲ爲スト同時ニ之ヲ提出者ニ還付スヘシ

第四十四條 郵便局ニ於テ輸入郵便物ヲ陸揚シタルトキハ當該稅關ニ通知スヘシ

郵便物ヲ檢査スルトキハ郵便局員立會ノ上之ヲ行フヘシ

第四節 貨物ノ回漕

第四十六條 貨物回漕ノ申告ハ積載スヘキ船舶ノ名稱、國籍、陸揚地、内外國貨物ノ區別、貨物ノ記號、番號、品名、箇數、數量及價格ヲ記載シタル文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第四十七條 回漕貨物船卸ヲ爲スヘキ地ニ到達シタルトキハ回漕免狀ヲ稅關ニ提出スヘシ

稅關ニ於テ前項ノ免狀ヲ受ケタルトキハ貨物ノ検査ヲ爲シ免狀ト符合スルトキハ該免狀ニ回漕濟ノ旨ヲ記入シテ提出者ニ還付スヘシ

第五節 貨物ノ收容ニ關スル手續

第四十八條 關稅法第四十七條ノ揭示及第四十八條ノ申告書ニハ貨物ノ記號、番號、品名及箇數ヲ記載スヘシ

第四十九條 關稅法第五十一條ノ公告ニハ前條ニ掲ケタル事項、競賣ノ事由、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十條 收容貨物ノ敷料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四章 異議

第五十一條 關稅ノ賦課ニ關スル異議ノ申立書ニハ不服ノ要領、理由、要求及處分ヲ受ケタル年月日ヲ記載シ附屬書類又ハ物件アルトキハ之ヲ表示スヘシ

第五十二條 異議判定書ニハ異議者ノ住所又ハ居所、氏名異議申立ノ要領、判定ノ理由及判定主文ヲ記載スヘシ

第五十三條 判定書ノ交付ハ使丁ノ送達ニ依リテ之ヲ爲ス但シ書留郵便ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 判定書ヲ送達シタルトキハ受領證ヲ繳スヘシ

第五十五條 異議者ノ住所、居所不明ナルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ判定書ヲ交付スル能ハサルトキハ其ノ要領ヲ揭示スヘシ

做ス

第五十六條 關稅法第六十三條ニ依リ貨物ヲ買上ケ又ハ評價人ヲシテ評價セシメントスルトキハ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五十七條 異議者前條ニ依リ貨物評價ノ通知ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ評價人ヲ選定シ其ノ職業、住所又ハ居所、氏名ヲ申告シ稅關長ノ認可ヲ受クヘシ但シ本條ノ期間ハ異議者ノ申請ニ依リ稅關長ニ於テ必要ナリト認メタルトキハ之ヲ延長スルコトヲ得

第五十八條 稅關長ハ異議者ノ選定シタル評價人ヲ不適當ト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ改選ヲ命スヘシ

第五十九條 稅關長評價人ヲ認可シタルトキハ評價ノ時期及場所ヲ指定シテ之ヲ異議者ニ通知スヘシ

第六十條 評價人評價ヲ終リタルトキハ評價ノ理由ヲ詳記シタル評價書ヲ作り之ヲ稅關ニ提出スヘシ

第六十一條 評價終リタルトキハ稅關長ハ課稅價格ヲ異議者ニ通知スヘシ

第五節 犯則事件ノ調査及處分

第六十二條 差押物件ハ差押ヲ爲シタル官吏之ヲ封印スヘシ

第六十三條 差押目録ニハ物件ノ品名、數量、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所、氏名ヲ記載スヘシ

第六十四條 差押物件ヲ所持者若ハ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ受領證ヲ繳シ市町村役場ニ保管セシメタルトキハ其ノ旨差押當時ノ所持者ニ通知スヘシ

第六十五條 關稅法第九十條ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ之ヲ公告シテ競賣ニ付スヘシ

前項ノ公告ニハ物件ノ品名、數量、競賣ノ事由、競賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ

第六十六條 臨檢、搜索及訊問調書ニハ臨檢、搜索又ハ訊問ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ記載ス

第六十七條 稅關官吏犯罪事件ノ調査ヲ終リタルトキハ稅關長ニ報告スヘシ

第六十八條 關稅法第九十四條ノ處分通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

處分通告書ニハ關稅法第九十四條ニ掲ケタル事項ノ外犯罪ニ關スル詳細ノ事實、物品ノ數量、納

付ノ場所及期間ヲ記載スヘシ

第六十九條 第五十三條及第五十四條ノ規定ハ處分通告書ノ送達ニ之ヲ準用ス

第七十條 沒收ニ該當スル物品ニシテ市町村役場ノ保管ニ係ルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲

スヘシ

第七十一條 稅關長犯罪事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目錄ト共ニ裁判所

ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所持者又ハ市町村役場ノ保管ニ係ルトキハ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知ス

ヘシ

第七十二條 犯罪ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉裏印スヘシ文字ノ挿入、削除若ハ欄外ノ記

入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ

文字ヲ削除スルトキハ其ノ字體ヲ存シ置キ其ノ字數ヲ記載スヘシ

第六章 稅關ノ執務時間及臨時開廳

第七十三條 稅關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前十時ヨリ午後四時迄トス

第七十四條 稅關ノ執務時間外ニ於テ臨時開廳ノ特許ヲ請ハントスル者ハ開廳ノ期間及其ノ期間

中ニ爲スヘキ事項ヲ記載シタル申請書ヲ稅關ニ提出スヘシ

前項ノ特許ヲ受ケタル者ハ特許手數料ヲ納ムヘシ

第七章 雜則

第七十五條 關稅法第九十八條ノ特許ヲ得ントスルトキハ港名、船舶ノ名稱、國籍、碇泊期間及理由、

貨物ノ陸揚ニ係ルトキハ其ノ品名、數量ヲ記載シタル文書ヲ以テ船長ヨリ稅關長ニ申請スヘシ

前項ノ特許ヲ得タルトキハ船長ヨリ特許手數料ヲ稅關ニ納付スヘシ

第七十六條 稅關ノ證明又ハ船舶貨物ニ關スル計表ヲ請フ者ハ手數料ヲ納ムヘシ

第七十七條 大藏大臣ハ棧橋、起重機其ノ他稅關所屬ノ土地、建設物又ハ備品ヲ使用スル者ヲシテ

使用料ヲ納付セシムルコトヲ得

第七十八條 手數料及使用料ノ額ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七十九條 手數料及使用料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

收入印紙ヲ以テ手數料及使用料ヲ納付セントスル者ハ納付書ニ貼用シテ之ヲ提出スヘシ

第八十條 稅關官吏及收稅官吏ハ差押物件、沒收物件、收容貨物、關稅ノ擔保物等ニシテ當該官吏

ノ賣却スルモノハ直接ト間接トヲ問ハス之ヲ買受クルコトヲ得ス

第八十一條 關稅法若ハ本規則ニ依リ當該官吏ニ於テ作ルヘキ文書ニハ官廳名若ハ官氏名及年月

日ヲ記載シ之ニ捺印スヘシ

第八十二條 申告書其ノ他ノ文書ニハ提出者ノ國籍、住所又ハ居所及提出ノ年月日ヲ記載シ提出

者之三署名スヘシ

第八十三條 關稅法又ハ本規則ニ依リ稅關又ハ稅關長ニ提出スヘキ文書ハ稅關支署ノ管轄内ニ在
リテハ稅關支署ニ提出スヘシ
前項ノ外稅關ニ關スル規定ハ稅關支署ニ之ヲ準用ス

附則

第八十四條 本規則ハ關稅法施行ノ日ヨリ施行ス但シ第一條及第二條ノ規定ハ關稅法施行ノ日ヨ
リ六箇月ヲ經テ之ヲ施行ス

第八十五條 明治三十年第三百八十五號勅令ハ本規則全部施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔參照〕

明治三十年十月二十日勅令第三百八十五號ハ協定稅率ノ便益ヲ受ケントスル輸入物品ノ製造原産地證明ニ關スル件ナリ

朕噸稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十二年六月二十九日

大藏大臣 伯耆松方正義

勅令第三百二十號(宣稱六月三十日)

噸稅法施行規則

第一條 噸稅法第一條但書ニ依リ一時ニ噸稅ヲ納付セントスル者ハ其ノ旨稅關又ハ稅關支署ニ申

告スヘシ

第二條 稅關又ハ稅關支署ニ於テ噸稅ヲ徵收セントスルトキハ其ノ稅金額及納付金庫ヲ指定シテ
納稅人ニ告知スヘシ

第三條 海難其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ開港ニ入港シタル外國貿易船ハ其ノ事由ヲ稅關又ハ
稅關支署ニ證明スヘシ但シ噸稅ヲ納付スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 噸稅納付濟ノ證明又ハ噸稅法第四條ニ依リ測度ヲ受ケタル場合ニ於テ船舶測度證ヲ受ケ
ントスル者ハ稅關又ハ稅關支署ニ申請シ證書一通ニ付手数料一圓五十錢ヲ納付スヘシ

前項ノ手数料ハ申請書ニ收入印紙ヲ貼付シテ之ヲ納付スルコトヲ得

第五條 犯則ノ調査及處分ノ手續ニ關シテハ關稅法施行規則ヲ準用ス

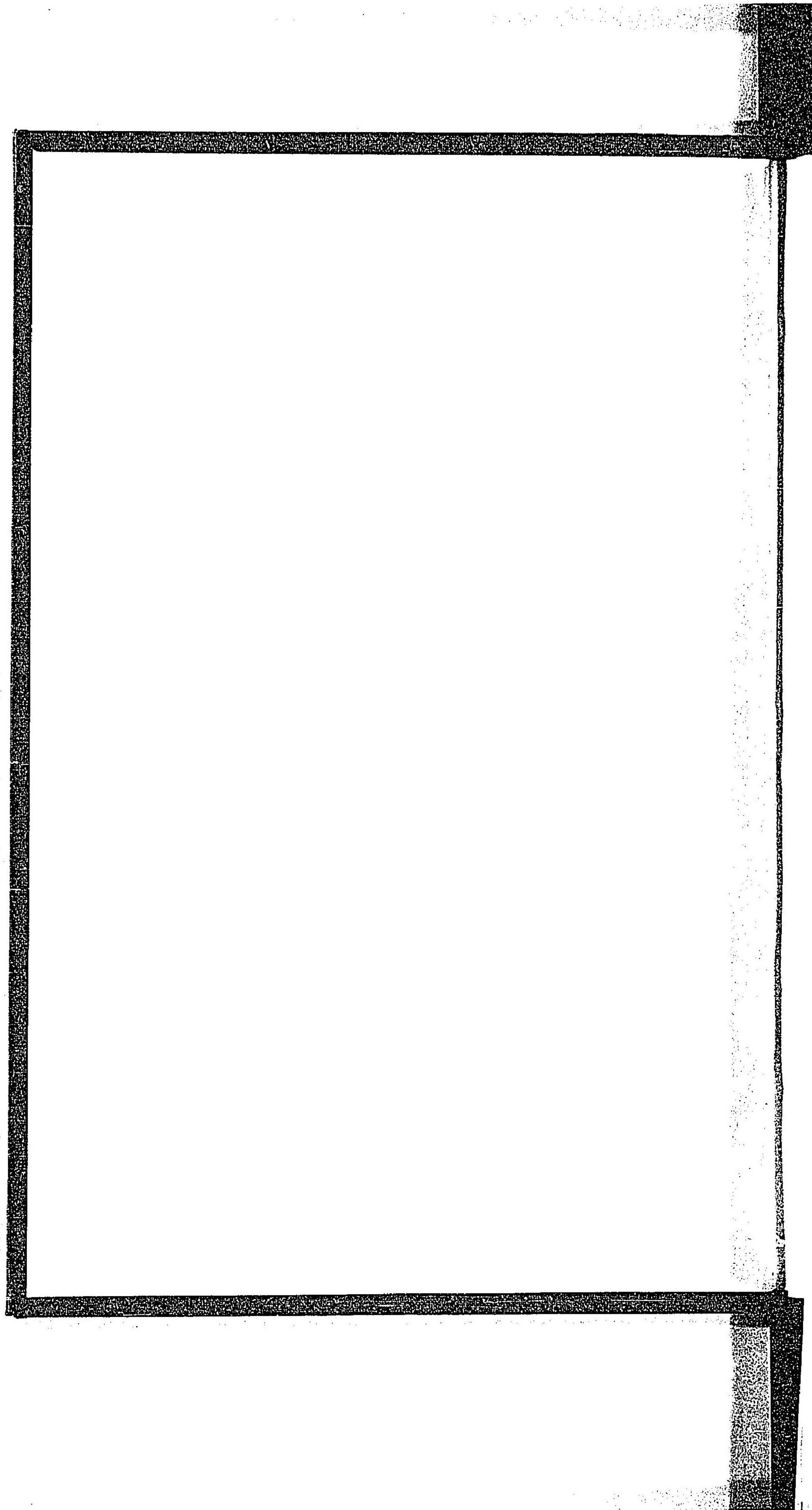
附則

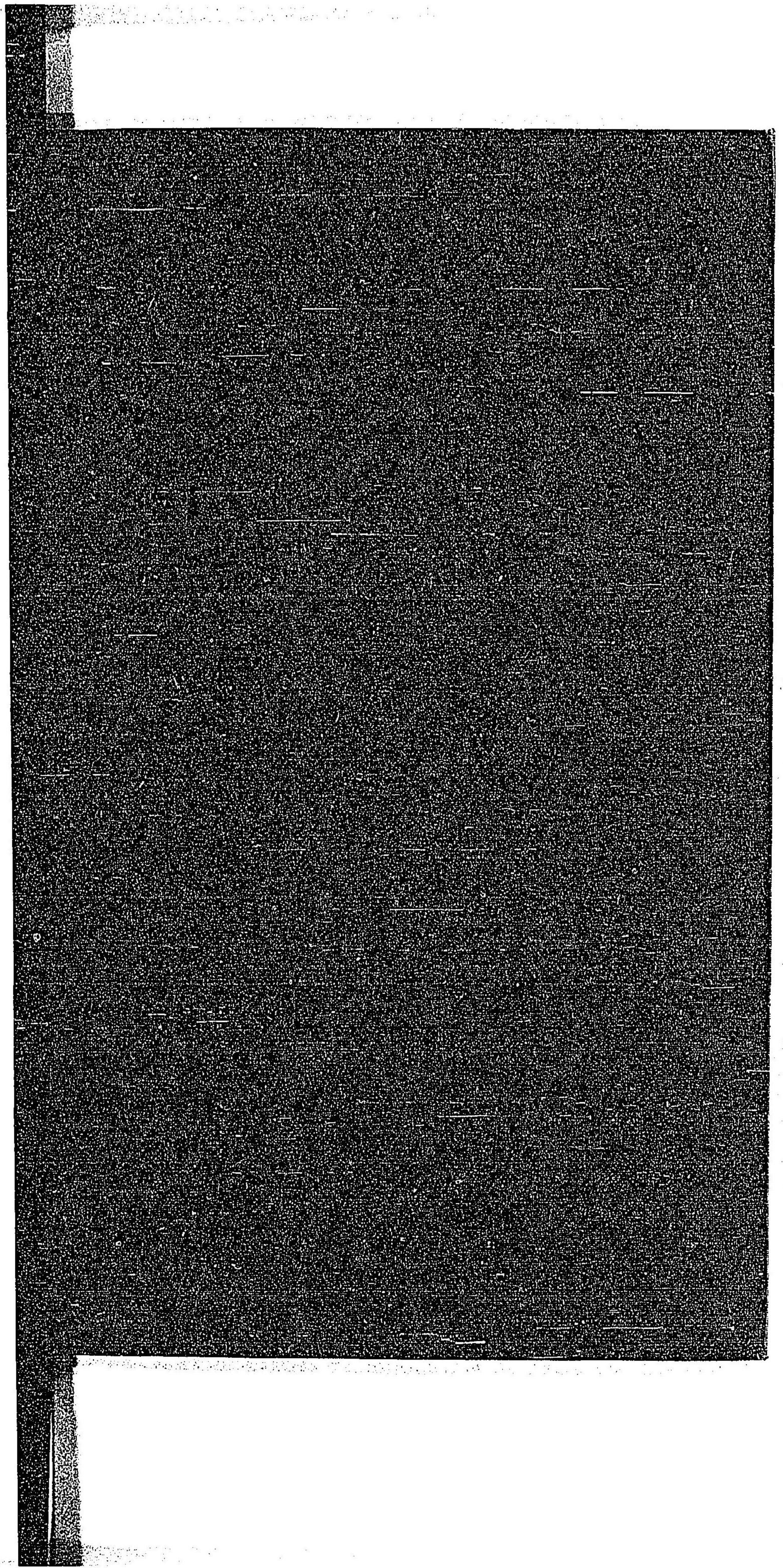
本令ハ噸稅法施行ノ日ヨリ施行ス

47+x8

明治三十三年六月 勅令

四六八





031130-066-9

CZ-4-1

法令全書 慶応3年10月-明治45年7月

内閣官報局

M20-45

BBC-1025



